
魔王と勇者

ハル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔王と勇者

【Nコード】

N5559R

【作者名】

ハル

【あらすじ】

相反する存在の勇者と魔王、そんな2人が手を組んだ!? でも野望とか世界征服とかはなかったりする

「俺はこの世界を救う使命を担う勇者！　魔王よ……お前を倒し、世界を救うために来た！　いざ、尋常に勝負！」

そう言つて、純銀の防具を鎧った勇者は、目の前にいる外見は少女である魔王に告げる。

すると魔王ーといつても、見た目は十代かそれ以下の少女なのだがーはそんな彼の言葉を聴き、

「ふ……貴様、なかなか見所があるな。どうだ？　世界の半分をやるう。私の配下になる気はないか？」

勇者に対して告げる。

そんな質問、『勇者』としての答えは決まっている。

普通はもちろん断るだろう。当たり前だ、世界を救う為にここまで来たのだから。ここで今それに応じてしまったら、今までの努

力が水泡に帰すのだから。

そんなことを考えて、そして、勇者は魔王の問いに自分の答えを告げる。

「俺はー」

魔界。それは魔が生まれ、魔が育ち、魔がはびこる、魔の者のみが存在する世界。その世界は『魔王』と呼ばれる存在により統治されていた。ここはその『魔王』の居城、【タルタロス】である。

この城の廊下には今、給仕服を着た女性――背中に翼の生えた――がホウキを片手に「ふんぶん」などと鼻歌を歌いながら掃除をしていた。

すると、廊下の奥から金髪を両側に束ねた発育の悪い小柄な体軀をした少女が女性の下にやってきた。

「おい、エル！ 勇者の奴はどこだ！」

無礼極まりない態度で、少女は女性に尋ねる。普通は気分を害するであろうその態度に、寛大な天使のように――実際に天使なのだ――笑顔で答える。

「あら魔王さま、どうかなさいました？ また勇者が何か粗相でも？ それと、私の名前は『ラファエル』なんです……」

「そうだ！ あのバカは……あのバカはどこにいるのだ！」

どうやら相当にご立腹な様子だと判断した天使の女性は、名前への返答がないことはスルーした。実の所、これは普段からよくあることで、もはや社交事例のようなものとなっている。

なので素直に魔王の要望に答えて嵐を過ぎ去らせよう、と思い

「勇者でしたら、ご自分の部屋にいらっしやるはずですよ？」

先ほど見かけましたから」

「ん……？」

部屋に戻った？

仕事でもしてるのか、

珍しく殊勝だ」

な、と言う前にラファエルが口を挟む。

「複数の女性の方をお連れしましたね」

途端、小柄な体が一瞬ラファエルには天をも衝くほどの威圧を放

っているように感じた、いや、見えた。本来彼女は魔王なので、当然と言えば当然だが。

肩を小刻みに振るわせながら、彼女は怒気を孕んだ口調で

「ふ、ふふふ……。そうか、あいうはまた、性懲りもなく、そうか……ふふふふふふ」

黒い空気を漂わせながら呟く少女に対する感情は『恐怖』のみだ。その空気だけで天使の背からは嫌な汗が伝う。

「邪魔をしたな……。ふふふ……。勇者め……」

魔王の少女がズンズンと進んでいく先は勇者の部屋だった――

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5559r/>

魔王と勇者

2011年10月8日13時41分発行